

青春を
懐かしむ時に

最初にこの
本を読んだのは、
青春真っ只中の高校生の時。隣の席の
子が貸してくれた。その時の感想は
『痛い』。自意識過剰の主人公は自分
の鏡のようであった。その後何度か読
み返しているが、大人になってから読
むと、高校時代の上手く生きられな
かった自分を許してあげられるよう
になり、青春を懐かしむようになる。

『葡萄が目にしみる』

(林 真理子／著 角川書店)

2015

山梨県立図書館の職員が選ぶ

こんな時、 この一冊

ちょっと
行き詰まった時に

自分を貫くこと、
何事も楽しむこと、
そして自分という存在が唯一無二のも
のであると気づくこと。言葉にする
と、ありふれていて単純なことのよう
に聞こえるが、これがなかなか難し
い。しかし繊細な作品たちをただ隅々
まで眺めていると、それだけで作者の
ポジティブな精神が自分に染み込んで
いくような気がするのだ。

『ニューヴォー切り絵』

(蒼山 日菜／著 河出書房新社)

見えないものへの
畏れを感じた時に

森をわたり、土のにおいを含んだ風
が、開いたページからそよぎ出てくる
気がする。収められているのは、ほん
のちょっと昔の話。今でも私たちの心
の奥にひっそりと息づいていて、だか
らなつかしさと呼び起こすのだろう。
原文で読めば、さらに妖しく、恐ろし
く、不可思議。そして人というものの
可笑しさを静かに伝えてくれる。

『遠野物語』（『遠野物語・山の人生』所収

柳田 国男／著 岩波書店）



やまなし読書活動促進事業によせて

本を贈る心

山梨県立図書館長 阿刀田高

読書離れが叫ばれているけれど、そう
であればこそ、あえて本を贈ろう。『な
にを贈ればいいの？』と悩むだろうが、
とにかく相手のことを考えて適切と信ず
る本を選ぼう。贈られる側は、贈った人
が“私のことを考えてくれたんだ”と相
手の配慮に思いを馳せよう。本そのもの
の価値もさることながら、ここには“思
い、思われる”という大切な人間関係が
伏在している。とにかく贈ってみよう。
贈られた人は、その心に感謝しよう。

悩んでいる
時に

武家出身でありながら仇討ちにより
父を亡くした松吉は、寒天問屋の主人
に救われ奉公することに。己の生き方
に迷いながらも商人として成長してい
く。人は生きる中で数多の困難を経験
する。しかし、だからこそ気づくこと
のできる人の温かさ、進むべき道、そ
して生きる意味がある。そんな大切な
ことを改めて感じる一冊である。

『銀二貫』（高田 郁／著 幻冬舎）

・・・ちょっと立ち止まり、自分を見つめるこの一冊・・・

頭をやわらかくしたい時に	『プチ哲学』(佐藤 雅彦／文と絵 中央公論新社)
心の余裕をもちたい時に	『暮らしのヒント集 1～3』(暮らしの手帖編集部／著 暮らしの手帖社)
こった頭と心をほぐしたい時に	『くろねこかあさん』(東 君平／さく 福音館書店)
元気を出したい時に	『チルドレン』(伊坂 幸太郎／著 講談社)
少し疲れた時に	『小さな幸せ46こ』(よしもと ばなな／著 中央公論新社)
漠然と不安な時に	『そら頭はでかいです、世界がすこんと入ります』(川上 未映子／著 講談社)
一步を踏み出す勇気を得たい時に	『くちびるに歌を』(中田 永一／著 小学館)
勇気を出したい時に	『のぼうの城』(和田 竜／著 小学館)
強敵に立ち向かう勇気が欲しい時に	『キャプテンサンダーボルト』(阿部 和重／著・伊坂 幸太郎／著 文藝春秋)
ハードボイルドに生きたい時に	『ナイト・ストーム』(サラ・パレツキー／著、山本 やよい／訳 早川書房)
無垢な心に出会いたいと思った時に	『わたしが・棄てた・女』(遠藤 周作／著、講談社)
今の自分を振り返りたい時に	『放課後の音符(キイノート)』(山田 詠美／著 新潮社)
出来ない理由を探している時に	『だってだってのおばあさん』(佐野 洋子／さく・え フレーベル館)
アイツとは分かり合えないと感じた時に	『人類の進化大図鑑』(アリス・ロバーツ／編著 馬場 悠男／日本語版監修 河出書房新社)
暮らし上手になりたい時に	『エプロンメモ よりぬき集』(暮らしの手帖編集部／著 暮らしの手帖社)
気の向くまま一人旅をする時に	『風の道雲の旅』(椎名 誠／著 晶文社)
夢を諦めたくないと思った時に	『「世界征服」は可能か?』(岡田 斗司夫／著 筑摩書房)

・・・こんな時におすすめ、シチュエーション別・この一冊・・・

読書のことをちょっと考えてみる時に	『本が売れない』というけれど(永江 朗／著 ポプラ社)
子どもたちに大切なことを伝えたい時に	『こどもたちへ まどさんからの手紙』(まど みちお／文 ささめや ゆき／絵 講談社)
「進歩」って何?と思ってしまった時に	『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』(内山 節／著 講談社)
身近な自然を感じた時に	『なく虫ずかん』(松岡 達英／え 篠原 栄太／もじ 福音館書店)
「あれ、うまそう!」と思った時に	『シネマ食堂』(飯島 奈美／著 朝日新聞出版)
江戸町人気分にひたりたい時に	『浮世絵に見る江戸の食卓』(林 綾野／著 美術出版社)
チェスをしたい時に	『猫を抱いて象と泳ぐ』(小川 洋子／著 文藝春秋)
暑さをしのぎたい時に	『営繕かるかや怪異譚』(小野 不由美／著 KADOKAWA)
物語の力を感じたい時に	『ノエル a story of stories』(道尾 秀介／著 新潮社)
2番目を称えたい時に	『戦艦武蔵』(吉村 昭／著 新潮社)
スープができるのを待っている時に	『それからはスープのことばかり考えて暮らした』(吉田 篤弘／著 中央公論新社)
気ままな生活に憧れた時に	『猫語の教科書』(ポール・ギャリコ／著 灰島 かり／訳 筑摩書房)
誰かにプレゼントをしたい時に	『きょうはなんのひ?』(瀬田 貞二／作、林 明子／絵 福音館書店)
ペットを飼いたくなった時に	『てつぞうはね』(ミロコマチコ／著 ブロンズ新社)
可笑しい話で笑いたい時に	『どろぼうだっそうだいさくせん!』(穂高 順也／作、西村 敏雄／絵 偕成社)
大切なひとができた時に	『どんなにきみがすきだかあててごらん』(サム・マクブラットニィ／ぶん アニタ・ジェラーム／え 評論社)
ゆるりとしたい時に	『ヘンな日本美術史』(山口 晃／著 祥伝社)